

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

12

2025 DEC.
第 271 号

学校長からのメッセージ

師走に入ると、本校はクリスマスの飾り付けをして主イエス・キリストの降誕を祝う時を迎えてます。12月13日にはクリスマス礼拝を行います。

クリスマスというと私はオー・ヘンリーの短編小説「賢者の贈り物」を思い出します。物語は貧しい夫婦がお互いに贈り物をするため、夫は家宝の懐中時計を売って妻の美しい長い髪をとく「櫛」を買いました。一方、妻は髪を売り、夫に懐中時計を身に付ける「鎖」を買ったのです。結局、互いの贈り物は用を成さなかったのですが、相手を心から大切に思う気持ちに感銘を受けました。

誰かのために何かをする。本校はYMCAの資産である“多様な繋がり”を活かして生徒たちのボランティア活動を後押ししています。それは、「ありがとう」と言われる経験が自身を励まし、生きる希望を得る良き機会になるからです。自分の不登校の経験を発表し「あなたの話で救われた」と感謝されたことで、自分を肯定的に捉えることができた生徒もいます。人に尽くすことで「ありがとう」の言葉が返って来て喜びとなる。この“誰か”的存在があることで自分が生かされていると実感でき、ひいては神様の愛によって生かされていることを理解する機会にもなると思います。

私は30代に自分の生き方が変わりました。それは「虐待の連鎖を断ち切るには、一人の人との良質な出会い」ということを学んだからです。以来、苦しい思いをしている“誰か”と、その人を救う光になる人をつなぐ。人がいなければ神様と繋ぎ、すべての人に幸せの種をまく。それが私に与えられたYMCAからのミッションであり、神様から示された“私が生きる意味”だと理解し、今日に至っています。

クリスマスは神様が私たちのもとへ主イエス・キリストを遣わしてくださった日。私たちもこの深い愛に応え、近くの誰かやまた遠く困難な中にいる人を思い、祈りたいと思います。大阪YMCAは今、クリスマス献金活動を行っています。淨財は困難にある人たちへの支援、地域奉仕、国際協力に用いられます。どうかご協力ください。

このクリスマスが、皆さんにとって“誰か”的な愛に満ちた時となりますように。

(校長 鍛治田 千文)

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」

(ルカによる福音書2章14節)





今月の聖句

「ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。」

(ルカによる福音書 2章6節)

今年も近づいてきたクリスマス。イメージするものといえば、プレゼントやサンタクロース、クリスマスツリーや街のイルミネーションなどでしょうか。もともと、クリスマスはイエスの誕生を祝うキリスト教の行事としてはじまったのですが、この誕生の物語は、私たちが知っている華やかで楽しいイメージとは程遠いものでした。

イエスは、今からおよそ2000年前、ユダヤ地方(現イスラエル)の片田舎であるベツレヘムという小さな村で生まれたとされています。当時、この地方はローマ帝国に支配されており、税金を集めることで人口調査が行われていたそうです。そのため、イエスの父ヨセフは、自分の生まれ故郷で登録をするため、出産直前のマリアを連れて数泊の旅を強いられます。ようやくたどり着いたベツレヘムには、彼らの泊まれる場所(二階の客間)がなく、暗い一階の家畜小屋で夜を明かすことになります。しかも、産気づいたマリアは、そこでイエスを生んだ、というのです。当時のこの地域の家畜は、羊や山羊が多く、時にロバや牛がいたようで、生まれたイエスはこの動物のエサが置かれる「飼い葉桶(かいばおけ)」に布にくるんで寝かせられたと記されています。

イエスの誕生。それは、二人の夫婦の険しい旅路の果てに、暗く汚い家畜小屋の隅で、ひっそりと起きる。後年、この物語は、聖書が示す「救い主」が、私たちの身近な生活の中にもある、暗く目立たず、人を迎えるような場所ではないところに来てくださるのだ、と受け止められています。明るく楽しいイメージとはほど遠い、暗くひっそりとした場所にこそ、主なる神が訪れてくださる。私たちの心にもあるそのような片隅で、今年もクリスマスを味わっていただければと思います。



「今月の聖句」 自己紹介

森山 徹

Yチャレンジコース1年次の担任と、Yリンクコースの担当をしています。

好きなことは、読書(マンガ含)とスポーツ観戦と休日の二度寝。聖書の言葉や物語の魅力を少しでも共有できればと思っています。これからよろしくお願ひします！

